

主催 | 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

共催 | 日本学術会議史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会

後援 | ジェンダー史学会、総合女性史学会

日時 | 2017年7月2日(日) 10:00-17:00

場所 | 国立歴史民俗博物館ガイダンスルーム (入場無料)

千葉県佐倉市城内町117 (京成佐倉駅より徒歩またはバス)

参加ご希望の方はメールにてお申し込みください。問合せ・申込先 gender@rekihaku.ac.jp

2016年度に開始した歴博基盤共同研究「日本列島社会の歴史とジェンダー」では、これまでの研究を通して、博物館における研究・資料収集・展示と、来館者が展示を通して理解する歴史像の両面で、歴史展示に表象されるジェンダーの重要性を確認してきた。本研究集会では、このような博物館業務全般にわたるジェンダー視点導入の意義、方法、その成果を、国際的視点から検証し、「歴史叙述としての展示」へのジェンダー視点導入の実践的方向性を探る。

## How is Gender Represented in Historical Exhibitions?

### プログラム

- 10:00-10:10 開催趣旨 横山百合子 (国立歴史民俗博物館)
- 10:10-11:50 トノムラヒトミ (ミシガン大学歴史学部)  
「アメリカにおけるジェンダー史研究状況と博物館展示」
- 11:00-11:40 黄貞燕 (国立臺北藝術大學博物館研究所)  
「博物館の資料収集・展示におけるジェンダー：台湾での経験から」
- 12:50-13:50 リー・コー・リン (シンガポール国立博物館前館長)  
「統合の歴史—シンガポール国立博物館におけるケース・スタディー」
- 14:00-14:40 松本直子 (岡山大学大学院社会文化科学研究科、日本学術会議連携会員)  
「日本の博物館におけるジェンダー表現の課題と展望  
—歴博の考古学展示に触れつつ—」
- 15:00-15:10 コメント1  
長志珠絵 (神戸大学大学院国際文化科学研究科、日本学術会議連携会員)
- 15:10-15:20 コメント2 三上喜孝 (国立歴史民俗博物館)
- 15:20-16:50 総合討論 報告者、コメンテータ、藤尾慎一郎 (国立歴史民俗博物館、日本学術会議連携会員)
- 16:50-17:00 総括 久留島典子 (東京大学史料編纂所、日本学術会議連携会員)

